

令和3年度 茨城県立結城第一高等学校 自己評価表

目指す学校像	校訓「自彊不息」(じきょうやまず：自ら努めて励み、事に当たっては全力を尽くして怠らないこと)を精神的支柱とし、知育・徳育・体育の健やかな成長を図り、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善により基礎学力の定着を図るとともに、自ら学び自ら考え実践する力を育成する学校 (2) 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道徳教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を育成する学校 (3) 特別活動や体験学習等の活性化により、健やかな心身を育成する学校 (4) 生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す学校 (5) 保護者・地域社会等と連携・協力しながら、常に教育活動の改善・充実を図る学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
校訓である「自彊不息」を目標に、教職員及び全生徒の共通理解のもと、教育活動を実践した結果、落ち着いた授業及び学校行事等に取り組む生徒が増えた。 生徒一人一人の心身のさらなる成長と希望進路の実現に向けて、引き続き基礎学力の定着及び基本的生活習慣の確立に努め、地域から愛され、信頼される学校づくりに邁進していく。	(1) 基礎学力の確実な定着 学習意欲の向上	① 教育内容や指導方法等を工夫・改善し、きめ細かな個に応じた「わかる授業」を実践する。 ② 各自の目標設定を明確にし、達成に向けて努力することを支援する。 ③ 基礎基本の反復学習等により、基礎学力の確実な定着を図るとともに、AL型授業を取り入れ、生徒が自主的・意欲的に取り組む態度を培う。 ④ 自分の考えを整理し記述する(書く)、伝達する(話す)、他の発言を傾聴する等の指導を充実させ、各自の言語活動や自己表現能力を育成する。 ⑤ 個別指導・習熟度別指導・課外指導等を通して、学習への自信や学習意欲の向上を図る。 ⑥ 予習・復習や課題等を主体的に行うことを通して、学びの習慣化を促す。	A
	(2) 基本的生活習慣の確立 規範意識や豊かな心の育成	① 服装頭髪指導を通して「制服を美しく着る」「身だしなみを整える」ことを強化する。 ② 授業や集会時における心得として、礼法や話を聞く姿勢を育成する。 ③ 挨拶や言葉遣い・態度等の礼儀作法を身に付けさせる。 ④ 公共マナー、社会規範や校則等のルールを遵守する意識を培う。特にSNSについて正しい理解と使い方を習得させる。 ⑤ 道徳教育や講話、読書等を通して、人を思いやる心、協力しあう心、感動する心等の豊かな心を育成する。 ⑥ 個別面談を密にし、保護者・スクールカウンセラー・外部機関等と連携・協力して、学校生活や進路、心の問題等への対応を適切に行う。	A
	(3) 特別活動・体験活動等の活性化	① ホームルーム活動や部活動、生徒会活動等の集団活動を通して、心身の調和と個性の伸長を図るとともに、他を思いやり尊重する等の社会性を育成する。 ② 文化祭や体育祭、クスマッチ等の学校行事を通して、協力する心や個々の責任感を育む。 ③ 生徒の自主的・自発的な活動を促進し、生徒会活動や部活動の活性化を図る。 ④ キャリアパスポートを用いて生徒と対話的にかわることによって、生徒の成長を促し、自己実現に向けて系統的な指導を行う。	B
	(4) 希望進路の実現 望ましい勤労観・職業観の醸成	① 早期から進路意識の醸成を図るとともに、自己の適性を理解することにより、進路選択でのミスマッチや早期離職の防止に努める。 ② 生徒の進路希望を把握し、生徒一人一人の能力や適性に基づいた計画的なキャリア支援をする。 ③ 外部講師による講演会や企業見学・インターンシップ等を通して、望ましい勤労観・職業観の醸成を図る。 ④ 社会人としてふさわしい言葉遣いや礼儀作法、身だしなみを身につける ⑤ 面談や面接指導を通して、生徒の進路希望の実現を支援する。	A

	(5) 保護者や地域社会等との連携・協力	① 学校の情報を積極的に、かつ分かりやすく発信するとともに、保護者や地域社会等からの意見等を集約・検討し、教育活動の魅力を高めるなどして、一層の理解と協力を得られるようにする。 ② 中学校訪問を密にし、情報交換を通して連携・協力を依頼し、中学校や地域社会等に信頼される学校を目指す。 ② ボランティア活動や地域の行事には積極的に参加し交流を深め、地域社会に根ざした学校を目指す。	B
	(6) 働き方改革	① 勤務時間を客観的に把握・集計するシステムを適切に運用する。 ② 業務の役割分担を見直す。 ③ 適切と言えない業務等を削減する。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	学習目標を明確にし、指導を工夫する。	生徒の習熟の程度を考慮した学習目標を設定し、計画に沿った「わかる授業」を展開しながら、各生徒の表現能力を育成する。 教員相互の学習指導の充実を図るために、教科間及び全職員対象に授業を公開し研修の場を設ける。	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を鑑みて、教科全体でしっかりとした年間指導計画を策定する。 ・個別指導・補講等を実施し、各教科で個に応じた指導に取り組むことができた。引き続き内容の充実を図る。 ・ICTを活用した授業展開の工夫について、研修を設ける。 	
	授業態度の改善を図る。	指導に適した教育環境・授業に取り組む体制を整え、1時間1時間の授業の大切さを自覚させて積極的に臨ませる。 学習意欲や学力の低い生徒に対して、放課後の個別指導や長期休業中の補講を実施することにより学習意欲を喚起させる。	B A		
	基礎学力の定着を図る。	数学Ⅰ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱで習熟度別少人数授業を展開し、基礎学力の定着・応用力の向上を図る。 授業内容の確認課題・週末課題等に取り組みせ、家庭学習の習慣化を図る。	A A		
教 科	国 語	基礎学力の定着を図る。	生徒の実態に合わせた授業形態の実施や自作プリントの活用など、適宜授業内容を工夫する。更に、小テスト等を繰り返し実施することで基礎基本の確認を徹底する。 副教材「漢字練習帳」を活用し、長期休業期間の課題として設定した上で、定期的に漢字テストを実施し、基礎学力の定着を図る。また、文章を書く機会を定期的に設け、表現力の向上に努める。	A A	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定対策、作文・小論文対策のための講座を開講し、合格率の上昇および就職進学につながる指導を目指す。 ・プリントや副教材等を工夫し、生徒が主体的に授業に参加できるようにする。 ・文章を書く機会をさらに増やすことで、表現力の養成及び向上を図る。
		学ぶ姿勢の確立とわかる授業の推進をする。	学習意欲の低い生徒への計画的な指導を行う。 授業参観や公開授業など、研修の機会を利用して自己研鑽に努め、授業を創意工夫する。	B B	
		漢字検定試験を奨励する	授業内において、漢字の読み書きに重点を置いて指導し、漢字検定試験合格へ導く。 漢字検定試験に向けた課外を実施し、文章読解力・表現力を養成しながら、国語への興味関心を喚起するとともに、資格取得を目指す。	A B	
	地 歴 ・ 公 民	基礎学力の定着を図る。	地理・歴史的素養を養うため、基礎的・基本的な知識を理解させるとともに、定期考査や小テストなどを実施して、知識の定着と習得を確認する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においてもできる生徒の主体的活動の取り入れ方を工夫する。 ・評価方法の在り方を考える。
		学習指導の工夫を図る。	幅広い教養を身に付けられるように、教材や資料の利用を工夫し、生徒が理解しやすい授業を行う。 生徒の主体的な活動を促す工夫を行う。	A	
		学習意欲の向上を図る。	アクティブラーニングの要素を取り入れながら、生徒が意欲的に主体的に取り組める体制を作る。また、ルーブリックによる評価を取り入れ、生徒が意欲的に学習に取り組める評価を実施する。	B	
	数 学	基礎学力の定着を図る。	学び直しの機会を設け、演習時間を十分に確保するなどして、基礎学力の定着を図る。 定期的にノートやプリントを点検し、望ましい授業態度の習慣を身に付ける。 定期考査前の放課後に実施する勉強会や、長期休業中の成績不振者に対する補講を活用して、基本的な内容の理解を深める。	A A A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の目標については、ほぼ達成することができた。 ・ICTを利用した授業展開を研究し、実践していく。

数 学		数学検定を春と秋の2回実施し、合格率を高めることにより、達成感を味わえるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・数学検定の受検者に課外を実施して、合格率向上に努める。 ・進学者に対して、必要な課外を充実させる。
		進学者（大学進学・医療系）に対して必要な課外を行い、学力向上を図る。	A		
	わかりやすい授業の展開と学習指導力の向上を図る。	各種研究会・授業参観等に参加するとともに、教科内でも積極的に授業観察を実施し、授業内容・方法等について教科内で研究協議を行い、指導力を高める。	B		
		数学Ⅰでは少人数による習熟度別授業を展開し、きめ細やかな指導を行う。その成果と課題を明確にし、改善を行う。	A		
		生徒同士が教え合う環境を作るなど、生徒が主体的に授業に参加できるよう指導の方法を工夫する。	A		
理 科	基礎学力の定着を図る。	生徒の実態に合わせた教材を開発し、生活に役立つ基礎的な学習内容の定着を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着だけでなく、計算力を向上させることによって、理科的な考え方を身につけさせる。 ・実験やICTを取り入れる。
		長期休業日や放課後の時間を利用し、成績不振者に対する補習授業を実施する。	B		
	学習指導の工夫に努める。	実験・観察・実習を積極的に行い、生徒が意欲的に学習活動できるようにする。	C	B	
		授業参観、公開授業等で学習指導の充実を図り、授業研究を推進する。	B		
		各種の発表会や研修会に積極的に参加し、その結果を教科内で報告するとともに、自己研鑽に努める。	B		
保 健 体 育	基礎体力の向上を図る。	授業時に3分間走を実施する。体力テストの結果をもとに、個に応じた体力の向上を図る。	A	A	主体的に取り組む姿勢の向上が今後の課題。授業の工夫をし、体を動かし技能を高めていく環境を整え、生徒の体力向上につとめていく。
	集団行動の徹底に努める。	集合、整列などの集団行動を徹底することで、協力し責任ある行動をとる態度を培うとともに、安全性への理解を深める。	A	A	
	スポーツの楽しさ、喜びを実感させる。	グループ編成を工夫し、各自の目的に応じた指導を行うことで、生徒が関心意欲を持ち、スポーツの楽しさ喜びを味わう態度を育てる。	B	B	
	健康、安全や性に関する学習に興味・関心を深める。	一般的な教養を身に付けられるように、教材や資料の利用を工夫し生徒が理解しやすい授業を行う。健康・安全や性に関する興味・関心を深め、正しい知識を身に付けさせる。	A	A	
芸 術	心の教育の改善を図る。	各教材の指導を通して、自主的・意欲的に表現する態度を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心が持続できる授業内容の改善並びに個々に応じた技能向上の指導工夫が必要である。
		鑑賞の指導を通して、豊かな感性と心の教育を図る。	B		
		用具の準備・片付け等をきちんとする習慣を培い学習姿勢の整備に努める。	A		
	学習指導の工夫に努める。	生徒の能力にあった教材を精選し、内容の工夫・改善を図る。	A	A	
英 語	学習目標を明確にし、指導を工夫する。	生徒の習熟度を考慮した学習目標を設定し、CAN-DOリスト、年間計画を踏まえた「わかる授業」を展開する。また、ALTとのチームティーチングでは、手法を工夫し、英語に対する関心を高め、生徒の表現能力の向上を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTが再配備されていない現状でできることを模索していく必要がある。 ・基礎学力の定着に課題がある生徒に対してのサポートを組織的にできた。 ・表現力向上を目指したパフォーマンステスト、電子黒板やデジタル教科書等のICT機器の活用について教科内での研究を継続していく。 ・英語検定試験に向けての指導協力体制が功を奏した。今後も、生徒の力を伸ばせる指導を共通理解を図りながら進めていく。
	基礎学力の定着を図る。	苦手意識のある生徒でも前向きな姿勢で学習に取り組めるよう指導を工夫し、支援するなどして学力の定着を図る。	A	A	
		学習につまずきのある生徒に対しては、放課後の個別指導や長期休業中の補講を実施することにより、基礎的な学習内容の定着を図る。	A		
	個に応じた指導をする。	指導に適した教育環境・授業に取り組む姿勢を整え、授業の大切さの自覚を促し、積極的に授業に臨めるようにする。また、ノート・プリントなどの提出物を随時確認し、学習の理解度を把握し、自主的な学習態度を涵養する。	A	A	
	少人数授業や習熟度別授業をし、基礎学力の定着・応用力の向上を図る。	A			
	授業内容の確認課題・週末課題に取り組むことで、英語を積極的に学ぼうとする姿勢を育成する。	A			
		課外も含めて進学や資格取得に向け個に応じた指導をすることで、意欲の高い生徒をより伸ばせるようにする。	A		
家	生活的自立のために必要な知識	副教材の資料集、ニュースや新聞などを活用し、生活で起こりうる課題について考え、生活における	B	B	家族法・消費・保育等、実生活で活用できる基本的な知識・技術の

庭	および技術を身につけさせる。	意思決定の選択肢の幅を広げることができるようにする。また、体験的な学習を実施し、より理解しやすい授業となるように工夫する。			理解度を高めるため、視覚教材の活用や学習活動を工夫する。 将来のライフステージごとに、起こりうる生活課題を自分事として捉えることができるように発問やグループ活動を工夫する。
	実習では、個に応じた細やかな指導をする。	製作物に関しては、完成・提出することを重視し、作業進度に応じて個別にきめ細かな指導をする。実習工程を、パワーポイントと手元の実習日誌の両方で確認することができるようにする。	A	A	
商業・情報	基礎的な知識・技術を身に付けさせる。	基礎的な情報リテラシーの能力の向上を図る。	A	B	情報モラルについて、知識だけでなく自分事としてとらえる態度を身につけられるような活動を取り入れる。
	情報社会に積極的に関わる態度を育成する。	ビデオ等を活用して、情報モラルの教育を積極的に推進する。	B		
	基礎学力の定着を図る。	ビジネス基礎、情報処理においては、基礎的な学習内容の定着を図る。	A	A	資格取得だけでなく、実務に生かせる知識を身につけさせる活動を取り入れる。
	資格取得を奨励する。	ビジネス基礎においては、資格取得を目標に意欲的に取り組む態度を育成する。 情報処理においては、資格取得を目標に意欲的に取り組む態度や応用力を育成する。	A B	B	

教 務	学習目標を明確にする。	各科目の単元ごとに目標を設定し、毎時の授業ポイントを踏まえて指導する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業に関する研修、相互授業参観や公開授業等を充実させ、生徒の主体性を引き出す授業を目指す。 コロナ感染症の影響で、総合的な学習の時間を計画的に実施することが難しかった。 校務支援システムが改訂される予定であり、入力の方法・注意点等の講習を充実させる。 教務部員の仕事の分担を工夫したい。
		基礎学力の定着のために繰り返し学習することを怠らず、小目標の習得を重ねて、生徒に学ぶ喜び・知る喜びを感得させる。	A		
		生徒の習熟の程度と授業の進捗状況を常に意識し、必要に応じて内容・進度等の微調整を図る。	A		
	授業研究を推進する。	校内授業担当者の研修として、授業参観・公開授業等を実施し、相互の学習指導の向上に役立てる。	B	B	
		生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、授業の形態や内容を工夫する。	B		
	学習環境を整える。	授業におけるマナー指導（挨拶・服装・頭髪・態度等）を徹底し、自ら意欲的に授業に臨む体制を整える。	A	A	
教育活動の公表に努める。	充実した内容のホームページや広報誌の更新・発行を通して、外部への広報活動を推進する。また在校生の状況・卒業生の動向等の報告を兼ねて、中学校訪問を充実させる。	A	A		
学校情報セキュリティの向上に努める	校内のパソコン、タブレットおよび電子黒板の利用環境を整備し、効率化を図る。さらに、人的・物的両面から個人情報の保護を徹底できるようにする。	A			
生徒指導	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	授業の充実を目指し、授業担当者は、授業態度・基本的な生活習慣の指導を徹底するとともに、体調・時間管理能力の向上を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 「当たり前のことを当たり前に行えるようにする」という基本理念の下、基本的な生活習慣の確立とルール・マナーの遵守を徹底させるために全教員が指導に協力してくれていることに感謝したい。次年度も引き続き粘り強い指導をお願いしたい。 携帯電話規定違反の者が昨年度よりも増えた。また、携帯電話の不適切な使用により指導になる者も少なくないので、携帯電話の使用に関しては一層の注意喚起をしていきたい。 指導についての保護者の理解と協力を得るために家庭への連絡
		各学年と連携して、毎日昇降口での朝の登校指導を実施し、挨拶の励行、服装頭髪等の規則遵守及び遅刻防止に努める。	A		
		教務部及び各学年と連携し、放課後に遅刻した生徒の事後指導を毎日実施し、遅刻防止に努める。また、集会等でSNSについての正しい理解と使い方の指導をする。	A		
		各学年と連携して、定期的に登校時及び下校時の校外指導を全職員輪番で実施し、登下校時の交通マナー及び校外での生活態度等の確立を図る。	A		
		各学年と連携して、ルール・マナーの遵守を徹底させる。ルール・マナーを遵守できない生徒に対しては毅然とした態度で臨み、学校全体で組織的に指導する。	A		
		服装頭髪検査で指導対象となった生徒について、事後指導を徹底する。	A		
		学校生活を送る上で特に問題のある生徒について、保護者を交えて指導するなど、家庭との連携を密に図る。	A		
		スクールカウンセラーと連携して、精神面で不安や問題を抱える生徒・保護者に対してカウンセリングを実施し、状況の改善を図る。感情をコントロールする能力や自制心の向上を図る。	A		
		制服の正しい着用指導に重点を置き、特に女子の適正なスカート丈について指導を徹底する。	A		

	喫煙防止、薬物使用防止についての意識を高める。	薬物乱用防止の講演会等を開催して、意識の向上を図る。	A	A					を密にすることがトラブル防止の肝になるので、引き続き些細なことでも家庭への連絡を密にしていきたい。
		保健体育科と連携して、保健の授業での指導を図る。	A						
	交通マナーについての意識を高め、交通事故を防止する。	交通安全講話を開催して、交通ルール・マナーに対する意識を高める。また、各学年及びHRでも交通ルール・マナーの周知徹底に努める。	A	A					・事故防止の観点から、交通ルール・マナーの遵守の徹底も引き続き行っていきたい。
		自転車点検及びバイク点検を定期的実施し、安全運転を励行する。	A						
		バイク通学者には安全運転への意識の向上を図るために定期的に声かけを行う等指導を徹底する。	A						
進路指導	早期からの進路意識の醸成を図るとともに、計画的なキャリア教育を実施する。	進路ガイダンスや外部講師による講演、進路別説明会や体験授業を通して、適切な進路情報を提供するとともに、働くことの意義や職業についての理解を深める。	A	A					・学年と連携して、生徒の実情にあった進路ガイダンスを企画する。 ・コロナ禍で制約を受ける中でも可能な職業観を育成するための方法やコンテンツを引き続き考えていく。
		職業適性検査、クレペリン検査、SPI検査等を実施し、生徒の適性を把握して試験に備える。	A						
		基礎力テストや模擬試験などを実施し、学力の向上を目指す。	A						
		「進路の手引き」や「進路便り」発行して、情報を提供し、ホームルームや面談で活用できるようにする。	A						
		生徒が必要な情報や資料を得られるように、進路教室を整備する。	B						
	望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	ハローワークや市と連携して、望ましい職業観・勤労観を育成し、ミスマッチや早期離職の防止に努めるとともに地域に貢献できる人材を育成する。	A	A					・面接指導を通して、礼儀やマナーを身に付けることに加えて、コミュニケーション能力や表現力を育成していく。 ・大学入学共通テスト受験者のための環境や教材を整備する。
		2年生全員のインターンシップを実施し、仕事や自己の適性を知る機会を与える。（※コロナにより中止）							
		就職希望者に企業見学を実施し、一人一人に合った進路の実現を支援する。	A						
		マナー講習会を実施し、社会人として必要な礼儀作法や身だしなみについて学ぶ。	A						
	進路目標の実現を図る。	進路希望調査を実施し、生徒の希望進路や適性を把握し、生徒の実情に合った進路行事を企画する。	A	A					・基礎力診断テストの効果的利用方法や実施時期について検討して、生徒の基礎学力の向上を目指していく。 ・生徒がアクセスできるデータベースの整備を継続して進め、生徒が利用しやすい進路教室の整備を行う。
		就職試験対策・推薦入試対策として、面接指導や小論文指導を実施する。	A						
		オープンキャンパスや看護体験、公務員講座等の情報を提供し、積極的な参加を促す。（※看護体験はコロナにより中止）	B						
		企業人事担当者、進学先入試担当者とのコミュニケーションを積極的に図り、進路情報の収集を行い担任や生徒に提供できるようにする。	A						
		情報処理検定や英検・漢検などの資格の取得の大切さを指導する。	A						
保健厚生	教育環境・生活環境の美化、整備を図る。	各学年及び各クラス輪番で、通学路や校舎内外の清掃をすることによって、地域社会との連携を目指し、美化意識の高揚を図る。また、感染症対策を徹底し、衛生管理に努める。	A	A					・学校全体で感染症対策を徹底させるため、情報を正しく収集する必要があり、可能な限り校内で感染者情報(クラスのみ)を公開していくことも大切である。
	健康維持・増進の意識向上を図る。	校内の安全管理・点検の実施により、学校事故の未然防止に努める。	A						
	生命の大切さを学ぶ。	検診・検査等の実施を通して、健康管理の大切さを意識できるようにするとともに、受診率の向上に努める。	A	A					・3年連続、コロナ感染症拡大防止のため救急救命講習が中止となったので、他の実施方法も検討したい。
		性教育講演会を実施し、性に関する正しい知識の定着や適切な意思決定・行動選択ができる実践力の育成を図る。	A						
	健康維持・増進の意識向上を図る。	健康相談や落ち葉清掃を通して、生命の尊さや心の健康の大切さについて学べるようにする。	A	B					・今年度以降、地震速報キットを利用した地震想定訓練も取り入れていきたい。
	生命の大切さを学ぶ。	救急救命講習を実施し、人命救助の正しい知識を学ぶ。	B	B					・スクールカウンセリングについて、相談件数にあった適切な回数を検討していく必要がある。
		防災訓練を実施し、訓練の重要性を認識できるようにするとともに、防災意識の高揚を図る。	B						
		カウンセリングを活用し、生徒の心のケアに努め、自己解決能力の涵養を目指す。	A						
図書	生徒の読書活動の推進を図る。	広報活動を充実させ生徒の図書館来館者の増加を図る。	A	A					・図書館への来館者の更なる増加

		蔵書や資料を更新し館内を整備し、生徒・職員が利用しやすいよう工夫する。	B		に向けて工夫をしていきたい。
		季節行事を通して生徒の教養と読書への興味関心を涵養する。	A		
	視聴覚教材を充実させ活用を促す	視聴覚教材を充実させるとともに、授業で活用しやすいよう工夫する。	B	A	
	委員会活動を通して、生徒の自主性を促進する。	「図書館だより」の制作を生徒に担当させ自主性を促す。	A		
	資料の収集・保管に努める。	図書委員を生徒図書委員会の研修会に参加させる。(※コロナにより中止)	A		
		一般紙やPTA新聞、学校内の出版物の保管をする。	A	A	
特別活動	生徒会・各種委員会活動の充実を図る。	生徒会役員と各種実行委員との連携を深め、生徒が主体的に取り組めるような行事運営を目指す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化 ・部活動運営方法の充実、改善(顧問配置、練習時間) ・部活動の数の精選 ・生徒会活動、委員会活動のさらなる活性化 ・各行事の見直し、改善 ・校外の活動に対して生徒が積極的に参加できるような仕組み作り。
		生徒会・各種委員会毎に活動計画を作成させ、目標達成の意識を高め活性化する。	A		
	部活動の活性化を図る。	新入生を対象に、部活動紹介・見学会を行い、1年生の加入率3割を目指す。	A	B	
		インターハイ予選前に運動部壮行会を行い、部活動への参加意識の高揚を図る。	B		
	学校行事の充実を図る。	学校行事の内容を改善し、生徒のモチベーションを高めるよう創意工夫する。	B	A	
		企画・運営を生徒会や実行委員会が中心になって行き、生徒が主体的・対話的で様々な学びが得られる参加型を目指すように工夫する。	A		
ホームルーム活動の充実を図る	学年や各校務分掌と連携し、生徒がペアワークやグループワークを通じたLHRの活用を促す。	B	B		
渉外	PTA活動の啓発を図る。	研修旅行や交流会を実施し、保護者・教職員の研修並びに交流を推進し親睦を深める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のPR方法の工夫を行い、参加者の増加に努めたい。 ・行事について、保護者が興味・関心を持って参加しやすい内容になるように検討をしていきたい。 ・部会での打ち合わせを密に行い、情報を共有していきたい。
	PTAによる生徒指導体制の確立を図る。	PTA広報誌「自彊」を年2回発行し、PTA活動の状況、生徒の現況、学校からの連絡等の広報活動をする。	A	A	
	基本的な生活習慣を確立するとともに規範意識を高める。	欠席・遅刻・早退を減らすために健康管理と規則正しい生活ができるよう指導する。特に、3点時間(起床・就寝・家庭学習開始)を固定できるよう、保護者と連携しながら支援していく。	A	A	
	PTA活動の啓発を図る。	人間関係づくりの基本である気持ちの良い挨拶を励行し、時と場に応じた立ち振る舞いや言葉遣いができるようにする。	B	B	
自己中心的なものの見方・考え方をするのではなく、良識ある社会人へと成長できるよう、きまりやマナーを守り、仲間と協調して自己を高めることへの大切さに気付けるようにする。		A			
第1学年	基本的な生活習慣を確立するとともに規範意識を高める。	きまりやマナー違反及びSNS上も含めて他者に迷惑をかけるような行動に対しては、毅然とした態度で臨み、学年全体で組織的に指導する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりやマナー等の生活習慣についてはHR等において継続的かつ効果的な指導ができた。 ・指導に差が出ないように教員間の情報交換や連携の仕方に工夫が必要。 ・家庭への連絡を密にすることで、保護者の理解を得ることができた。 ・個に応じた学習環境や指導方法
		身だしなみ(制服の着方・頭髪等)について日常生活のあらゆる機会を通して指導をしていく。また、必要に応じて生徒指導部と連携を図り、落ち着きのある学校生活を送れるようにする。	A		
		保護者への連絡を密にし、生徒・保護者と教員が意思疎通を図りながら信頼関係を構築し、生徒の望ましい成長を支援する。	A		
	基礎学力の充実と学習意欲の向上を図る。	学び直しの時間を設け、既習内容の復習と苦手意識を克服させることで、高校への学習にスムーズにつながられるようにする。また、個に応じた指導ができるよう授業担当者間で共通理解を図る。	B	B	
授業に集中して取り組めるよう学習環境を整え、授業担当者との連絡を密にとり、家庭学習課題にも誠実に取り組む姿勢を涵養する。		B			

		生徒が主体的に学び、「分かる授業」が展開できるよう教授法や指導内容を工夫・改善する。	B		<p>が整うなかで、生徒の学習に対する意識をどれだけ引き上げられるかが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスや見学会、体験を通して、自己の進路を真剣に考える姿が見られた。引き続き、進路指導部と連携し、自己の将来についてのイメージが図れるよう、LHRや総合を使った取り組みを展開させたい。
将来や適性について考え、自己に合った進路選択につなげる。		進路ガイダンスや進路見学会、HRでの進路学習や面談、PA活動を通じて、自己理解を深め、自分の進路について真剣に考え、適正な進路選択ができるよう支援する。	A	B	
		就職試験や各種検定試験に向けて、自主的な学習ができるよう意識の高揚を図る。	C		
		生徒や家庭が個々の希望に合った判断ができるよう、進路の手引きを活用するなど適宜進路情報を提供する。	B		
			B		
第2学年	基本的な生活習慣を徹底する。また、規範意識の高揚を図る。	道徳教育を通して他者を尊重する態度を養う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスマッチや体育祭などの学校行事の際、エントリーした種目に積極的・意欲的に臨んただけでなく、担当した系の仕事も責任感をもって果たすことができていた。 ・学年集会やHR等での服装頭髪指導を今後より徹底していく必要がある。 ・校外でも人命救助などの人助けをする生徒が複数名
		部活動や学校行事に積極的・意欲的に参加し、様々な経験を積めるよう助言するとともにクラスや学校生活の中での自己有用感を高められるようにする。	A		
		清掃等の奉仕活動及び委員会活動やHRでの役割に責任を持って取り組む姿勢を身につけさせる。	A		
		家庭と連携し、遅刻、欠席、早退をせず、毎日規則正しい生活を送ることができるよう支援する。また、公共マナー、社会規範や校則等のきまりを遵守し、誰もが安心できるような環境づくりに寄与しようとする姿勢を育てる。特に、SNSとは上手な付き合いができるよう指導する。	B		
		学年集会やHRでの服装頭髪指導を通して「身だしなみを整え、制服を美しく着る」ことができるようにする。	B		
		気持ちのよい挨拶が人間関係づくりの基盤となることを自覚し、時と場に応じた言葉遣いや分別ある行動ができるようにする。	A		
		プロジェクトアドベンチャー活動や日常のあらゆる機会を通じて、自分と違う価値観をもつ相手も尊重し、多様性を認め合えるような寛容な心を育む。	B		
学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。	基礎的・基本的事項を繰り返し学習し、家庭でも学習する習慣を身につけることによって基礎学力の定着を図る。また、努力している生徒を褒めるタイミングを見逃さないようにする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲や基礎学力に個人差がかなりある。課題がある生徒ばかりでなく、まじめに努力している生徒をより伸ばせる指導を計画的に実施していく。 	
	個に応じた指導ができるよう担任と科目担当者間の連絡を密に取る。また、必要に応じて情報交換をしたり科目担当者会議をしたりして生徒の学習状況に関して共通理解を図る。	B			
具体的な進路の目標を決定し、その実現に向けて努力しようとする意識を高める。	将来の自分の在り方生き方を見つめ、どのような人生を送りたいかを考えることで正しい進路選択ができるようHRや面談等を通して支援する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HR、学年集会、学年PTA等を通して進路情報を適宜提供している。今後も家庭と進路情報の共有を図っていく。 ・来年度も一般常識テストを計画的に実施し、就職試験に向けて力をつけさせたい。 	
	インターンシップや進路行事及びHRでの進路研究、進路の手引きの活用を通して、職業や進学先に対する情報を得ることで進路の目標を具体化できるようにする。	B			
	一般常識テストやSPIテストを実施し、就職試験に耐える力をつけられるようにする。また、各種検定試験に向けて自主的・自発的に学習に取り組めるようにする。	A			
	進学希望者がより高い目標を持って学習に取り組めるよう、進路情報を適宜提供し、個別指導を充実させる。また、生徒・保護者との信頼関係を強固にし、生徒がより成長できるよう努める。	A			
部活動・委員会活動や学校行事	実り多き修学旅行にするために、授業や「総合的な学習の時間」を活用し、事前・事後学習をする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の理解を得ながら入念に 	

	で中心的役割を担えるようにする。	クラスマッチや自彊祭などの学校行事に級友と協調しながら主体的な態度で臨むことで自己有用感を高められるようにする。	A		計画、準備をして実施したので、修学旅行の目的を達成できた。
第3学年	基本的な生活習慣の確立及び規範意識の更なる高揚を図る。	欠席・遅刻・早退を減らし、規則正しい生活が送れるよう指導の徹底を図る。家庭とは連携を密にし、必要に応じて保護者と面談するなどして指導の徹底を図る。	B	B	欠席が多くなるもの、遅刻が常態化しているものへの生活指導の充実。保護者との連携が鍵となる。
		ルールやマナー違反に対しては毅然とした態度で接し、学年全体で組織的に指導できるようにする。	A		
		頭髪服装検査を毎月1回実施する。また、言葉遣いや態度等の指導を徹底する。継続して観察・指導を行い、必要に応じて生徒指導部と連携を図る。	B		
		学校と家庭が連絡を密にしながら協力していくことにより、生徒や保護者との信頼関係を構築し、生徒の成長を支援する。	A		
社会人として必要な学力の定着と学習意欲の向上を図る。	一般常識ドリルの確認テストを「総合的な学習の時間」に実施し、基礎学力や一般常識に関する学力の向上を図る。	B	B	社会人として何が必要になるか、考えさせ、理解させることの工夫。その上で、自ら学ぼうとする姿勢をもたせる工夫。	
	社会人として必要な学力の必要性を自覚させ、自ら学ぶ姿勢を育む。必要に応じて授業担当者会議を開催し、教員間の共通理解を図る。	C			
	生徒が安心して学習に取り組めるよう環境を整え、落ち着いた中で授業に取り組ませる。また、教室の巡回指導を実施し、授業担当者が授業を展開しやすい環境を作る。	B			
希望進路実現に向けた指導に努める。	各ホームルームで「進路の手引き」を効果的に活用し、進路意識の高揚を図る。進路実現に向けて個々にあった的確な助言、援助を行うことで、自ら努力する姿勢を育む。	A	A	自ら考え行動することが、進路希望の実現には必要であることを、意識付けさせるための指導。	
	希望進路実現の助けになるよう、英検、漢検、数検、ワープロ検定、簿記検定などの資格を積極的に取得させる。	A			
	Bコース（大学進学希望者コース）に対して、課外授業や模擬試験等を実施し、積極的な進学対策を推進する。また、Aコース（就職・専門学校希望者コース）の希望者には、放課後の課外を実施する。	C			
充実した学校生活を送る指導に努める。	クラスマッチや自彊祭などの学校行事に積極的に参加させ、ふりかえりの時間を十分とることで級友とのコミュニケーション能力を高められるように指導する。	B	B	生徒自らが、意欲的に取り組める行事等の精選。悩みを抱える生徒を見抜く、生徒観察。	
	担任との二者面談やスクールカウンセラーとの面談を活用して、悩みを抱える生徒の問題解決の援助をする。	B			

※評価基準：A；十分によい B；よい C；やや不十分 D；不十分